



題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

一般財団法人 友愛

〒112-0002
東京都文京区小石川
1-10-13 小石川文ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

E-Mail:you-i@yuai-love.com

http://yuai-love.com

発行人：川手正一郎

編集人：

隔月1回 10日発行

年会費

2,000円

新年度事業に向けて

一般財団法人 友愛 始動

理事、新任理事、監事が一堂に会して
公益財団法人認定申請中・法人名も新たに活動開始

二月二十三日(金)十九時より、友愛サロン(友愛事務局三階)に於いて、第六十九回月例(臨時)理事会が開催された。今回の理事会には、十二月二十二日(金)第十六回臨時評議員会において選任された、五名の理事の内四名が出席、友愛サロンの会議用オバルテーブルは、新しいエネルギーと活気で囲まれた。

現在公益財団法人認定申請をしている本財団として、公益認定を見据えた平成三〇年度の事業実施について協議が行われた。ホームページのアクセス閲覧率が良いことから、ホームページの中国語訳掲載など、新しい方向性が打ち立てられた。

通常は午前開催される理事会であるが、今回は新任理事の出席の都合もあり、午後七時から開催された。冒頭、鳩山由紀夫理事長は挨拶で、「本財団も友愛と名称を一新しました。これは現在認定申請をしている新任の理事も加わって、迫力のある理事会が開催され、活発な意見が交わされた。

公益法人化に向けての前進的な対応です。出来れば次年度から、公益法人として活動していかれることを願っています。いずれにしても大いなる発展のために、新たに五名の方に理事に就任していただきました。これまで以上を目指してよりしくお願いします」と述べた。

川手正一郎常務理事から

理事会の開催にあたり、挨拶する鳩山由紀夫理事長
頼もしい顔ぶれですと笑顔で



新任
茂木健一郎理事
脳科学者



新任
井上和子理事
前日本友愛協会 評議員長



新任
堀上哲夫理事
鳩山友愛塾第二期修了生



新任
西川伸起理事
鳩山友愛塾第一期修了生



新任
井田安信理事
鳩山友愛塾第一期修了生

アドレスも一新！

ホームページ
yuai-love.com

メールアドレス
you-i@yuai-love.com

*旧アドレスも使えます

友愛青年同志会・日本友愛青年協会・日本友愛協会
友愛 創立65周年記念式典開催決定
五月十九日(土) 鳩山会館にて

一般財団法人友愛は、平成三〇年四月で創立六十五周年を迎える。

昭和二十八年四月二十九日、日比谷公会堂で友愛青年同志会の結成大会が開かれ、現在の友愛の礎を築いた「壮大なる志」を抱いた若者が、友愛の旗のもとに集った。

爾来、財団法人日本友愛青年協会、一般財団法人日本友愛協会と時代に合わせた変遷を経て、現在の一般財団法人友愛に至っている。

開催要領は左記の通り。*参加ご希望の方は、住所・氏名・電話番号を記して、友愛事務局まで、ファックスまたはハガキにてお申し込みください。

*お問い合わせ…友愛事務局までお気軽にどうぞ

謹啓 時下、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。平素は友愛に対し格別のご声援を賜り、有難く厚く御礼申し上げます。

さて、本年四月二十九日で友愛は結成以来、満六十五年となります。つきましては、左記にて六十五周年記念祝賀会を開催いたします。ここにご案内申し上げます。

折角の機会ですのでお繰り合わせの上ご来賓いただきました。ご高配の程よりしくお願い申し上げます。

一般財団法人日本友愛協会は三月一日をもちまして一般財団法人友愛と称号変更を行いました。そして更なる発展を期し、公益財団法人友愛として現在内閣府に申請手続き中です。

記

日時 平成三十年五月十九日(土)
正午より

場所 鳩山会館
文京区音羽一七一

会費 一万円

一般財団法人友愛理事長 鳩山由紀夫
記念祝賀会実行委員長 川手正一郎

友愛時評

▼年度末を迎え、大学近辺にも家を探す新入生の親子連れの姿が見られるようになった。毎年の光景ではあるが、今年は筆者にとって他人事ではない。愚息の入試結果を聞き、私大の高い学費と仕送りの捻出の計算に頭を悩ませている。▼自然に「奨学金」の各種案内にも目が行く。とはいえ、日本では高等教育のための「奨学金」は非常に少なく、その大半は「教育ローン」であることは報道等よく知られるようになった。それでも無利子のローンについては公的な資金が投入されているのだから「貸与型奨学金」という表現もあり得る、というのかもしれないが、国際的には通用しない論理である。▼かつての日本育英会奨学金には返還特別免除制度があり、研究・教育職に就いて十五年以上勤務すれば返還免除となるタイプも広く利用されていた。この返還特別免除制度は、研究・教育職だけを免除対象とするこの是非も問われ、一九九〇年代末の橋本行革の際に廃止されたが、この制度がなければ筆者も大学院に進学することはできなかった。▼この間、私学との格差解消という名目の下、国立大学の授業料も一貫して上げられてきた。学校外での教育費も高む中、親の所得と進学率の相関関係もデータとして裏づけられ、誰もが平等に高等教育を受ける機会を与えられているとはとても言えない状況になっている。▼さて、今更にの強い安倍政権の「人づくり革命」で何かが変わるのだろうか——今度は親として「教育ローン」の利用を考えながら、ため息をついている。(ヒゲ)

奨学金対象 講演感想文「私にとって友愛とは」

入賞作品 一位呉荏さん、二位 宋姣さん・崔所為さん 全文紹介

審査員全員が絶賛 日本語の文章力・論旨の見事さ

昨年十一月に北京の二十一世紀飯店で実施された「友愛講演会」には、北京理工大学・北京語言大学・中央民族大学の学生が参加。この内、北京理工大学日本語学科の学生を対象として、奨学金が贈られる感想文コンテストに多くの作品が寄せられました。今回第三回目となるコンテストには、第一回、第二回を凌ぐ力作が寄せられ、審査員もその文章力、論旨に大いに感動しました。その内容を充分堪能していただけるよう、上位三名の作品を紹介します。全文本人から寄せられた文章を原文のママ掲載しております。彼等の綴る日本語を、「友愛」を味わってください。

リスク社会の中での「友愛」 呉 荏／四年生

北京の寒い冬のある日、昨年に続き鳩山由紀夫先生と会い、友愛について理解を深める機会を得たことは非常に喜ばしいことだった。講演の中で、鳩山先生は個人から国際情勢まで、さまざまな例を挙げ、友愛を分かりやすく説明した。その中で一番印象に残ったのが、鳩山先生が「友愛とは自立と共生です」と述べたことだ。この一言に触発され、私は友愛についていろいろ考えてみた。

私の以前の理解では、友愛とはあまり知らない者同士の間で愛のことであつた。互いの人格を尊重し、困ったとき互いに助け合うことだ。この理解では、友愛はどう考えても自立とは

一位 四年生 呉 荏さん



関係がない。しかし、よく考えてみれば、自立は友愛にとって非常に大事だ。自立できない人は他人を助けることなどできない。鳩山先生の言った通り、自己の尊厳（自立）を高め、他者を尊重（共生）するのが友愛だ。

鳩山先生の講演を聞きながら、私はウルリッヒ・ベックの「リスク社会」(1998)という言葉思い出した。リスク社会とは、近代化と産業化に伴って副産物として生まれたリスクが、例えばチェルノブイリや福島原子力発電所の事故のように、常に生産、再生産される社会のことだ。このリスクは、環境破壊のような環境と人間の関係に関わるものと、核家族内の矛盾や個人化のように社会と人間の関係に関わるものに分類される。このような複雑化したリスクが生み出される現代社会において、鳩山先生の説く友愛は一層重要になってくるのではないかと私は思う。「友愛とは自立と共生です」と先生は言った。この自立と共生という二つの要素がリスク社会にとって、重要性を増していると思う。

自立という言葉は、私は高校時代によく聞いた。担任の先生はいつも「自立できる人になりなさい」と言った。当時の私は自立を「自分のことは自分でやる」と理解した。つまり「他人に迷惑をかけない」ということだ。しかし、自立はそう簡単ではないということが次第に分かってきた。自分のことを自分でやるだけではなく、自分を尊重することも重要だ。自分を尊重して初めて他人を尊重することもできる。しかし、自立意識の度が過ぎると、自己中心になりかねない。女性の社会進出により女性の自立が進み、家庭内の男女分業を前提とした工業化の産物、核家族が機能不全になっている現代のリスク社会では、職場では女性は男性のライバルになり、家庭では誰が家事をするのか、といった問題が生じている。このような問題に直面したとき「自立」と同時に「共生」、すなわち相手を尊重し思いやるのが非常に大切になってくるのではないだろうか。

また、放射能汚染や大気汚染などの例が示すように、近年の環境問題は目に

二位 三年生 宋 姣さん



すが、友愛に対する定義は時代や地域によって違うはずですし、人によってもそれぞれ異なるはずです。鳩山由紀夫先生は講演で、墨子に触れながら、ご自身の考える友愛とは自立と共生だと説きました。その考えを聞いて、私も鳩山先生の友愛の精神に共感し、自分の友愛に対する考え方を新たにしました。

鳩山先生によると、友愛とはお互いがお互いを尊重し、理解し、助け合うということ、更にそこには、自立と共生という概念が伴います。一個人でも、国家でも、鳩山先生が説く友愛という概念を実践することができると。私たちはこの友愛の概念を理解し、日常生活において、身近なところから実践していくべきだと思います。

例えば、鳩山先生が言及されていた植林活動です。植林活動は地道で地味な活動とはいえ、友愛の概念――自然と人類に対する慈しみを具現化した活動だと思

います。中国経済は急速に発展する一方で、私たちの生活環境は逆に悪くなりました。利益だけを重視し、自然にダメージを与えることを考慮してこなかった結果です。ですが、ひたすら利益を追求し続けるなら、やがて自然環境のみならず人類にも悪影響を及ぼすようになります。中国の大気汚染問題がそのいい例でしょう。友愛の精神がないと、私たちは自然のみならず、自分で自分の首を絞めることになり、人類自身を滅ぼしかねません。ですから、私たちは自分の行動に責任を持ち、自然を慈しみ、自然と共存し、自然を保護すべきです。そうすることによって、私たちは人間は自然から恩恵を受け、子々孫々に渡って自然と共存していくことができます。植林活動は、自然を保護することを通じて、自然と共生し、友愛の精神を具現化しています。友愛会が行うような大規模な植林活動はできなくても、芝生の上を歩かない、ゴミを投げ捨てない、ゴミを分別する、リサイクル活動をする、環境に優しいエコ商品を買うなど、日常生活を通じて、私たちも自然と共存することができるとはな

いでしょうか。また、鳩山先生が説く友愛は、個人のことであり同時に、国家のことであります。国と国の間に友愛があるからこそ、国と国が協力でき、仲間としてお互いに協力し、発展することができます。私は今はまだ一大学生にすぎないのですが、今後、中日関係が一層和らぎ、友好的に発展していくことを心から願っています。日本と中国が将来、鳩山先生の説く自立と共存の関係を築

けるように、日本語専攻の学生として、大好きな日本の文化、風俗、生活、社会、歴史などをもっと深く学び理解するために、今後も一生懸命日本語を勉強したいと思っています。また、日本人々に中国のことをもっと良く理解してもらい、お互いがわかり合えるように、中国のこともしっかりと学び、日本の人々に伝えていくようにしたいと思っています。自分が中国人として自立したアイデンティティを確立し、日本人々と友好的に共存していきたいと思うからです。

私は日本語を通して日中友好のかけ橋になりたいと思います。私自身の日々の行動や勉強を通じて、鳩山先生の説く友愛の精神を、日本人にも中国人にも伝えていきたいと思っています。

私にとって友愛とは

崔 所為／二年生

子供の頃、家ではよく両親に「友達と仲良く付き合いなさい」と言われ、学校では国語の先生に何度も友好の美しさを教わった。先日の鳩山由紀夫先生の講演を聞く前まで、私は友愛とは仲の良さや友好、つまり周りの人を心から大切に思

って、身近な人が困難に陥った時、できるだけ手を差し伸べて、助けようとする

ことだと思っていた。しかし鳩山先生から「友愛とは自立と共生だ」とお聞きして、私は友愛の意味を考え直してみることにし

二位 二年生 崔所為さん



三面につづく

友愛は人の関係のみならず、自然にまで広げる必要もある。近年の中国は経済発展を優先したため、大量の木を濫伐し、汚水や廃棄物や有毒ガスを排出してしまった。そして、環境問題は深刻になっている。私が幼児に見た蝶が、最近では目にできなくなつて悲しい。蝶のいた林までもが、

マンションになってしまった。人間の手により、きれいな山・川が失われ、色々な生物が絶滅しつつある。この問題に直面し、人は人に対するように、自然に対する友愛を持つべきだと思ふ。植林活動や野生動物の保護を通じ、「自然との共生」を実現するのが友愛の実践ではないか。

掲載の学年は、平成29年11月当時。次号は、三位の三名を掲載します。

*入選作品全編をまとめた小冊子をご希望の方は事務局までご連絡ください。

「友愛と平和の第九」から一〇〇年

徳島新聞社編集委員 藤長 英之

「全ての人々は兄弟になる」。一八二四年、楽聖ベートーベンが最後の交響曲として世に送り出した「第九」は、友愛と平和を象徴する音楽として世界中の人々に愛されてきた。

この第九が日本、アジアで初めて全曲演奏されたのは、第1次世界大戦中に徳島県板東町(現鳴門市)にあった板東俘虜(ふりょ)収容所だった。今からちょうど一〇〇年前の一九一八年六月一日、中国・青島で日本軍に敗れて徳島に送られたドイツ兵捕虜たちが、鉄条網の中で「歓喜の歌」を響かせた。

板東収容所は、福島県会津若松市出身の松江豊寿(とよひさ)所長による人道的な管理運営で知られる。板東には四国霊場一番札所・霊山(りょうぜん)より多くの友愛が溢れる明日を迎えられるかどうかは、今日の我々若者がどのように努力するか否かによると思う。私はこれから、人間への友愛はもとより、自然への友愛を忘れずに成長していきたい。

掲載の学年は、平成29年11月当時。次号は、三位の三名を掲載します。

寺があり、捕虜たちは「お接待の精神」が根付く土地で、地域住民との温かな交流を育んだ。こうした背景の中、ドイツ兵は屈指の難曲である第九に挑み、人類愛をうたつた歌詞に平和への願いを託した。

第九は合唱付きという交響曲では異例の試みによって至上の連帯感を生み出し、私たちを魅了する。ペルリンの壁崩壊記念のコンサートや五輪の開会式をはじめ、世界史の重要な場面で度々演奏されてきた。また、第九の第四楽章は「E.U.の歌」でもある。日本友愛協会の創設者、故嶋山一郎氏の友愛思想に大きな影響を与えたクーデンホフ・カレルギー伯の提唱で採用されたものだ。

あまたのクラシック音楽の頂点に君臨する第九が、

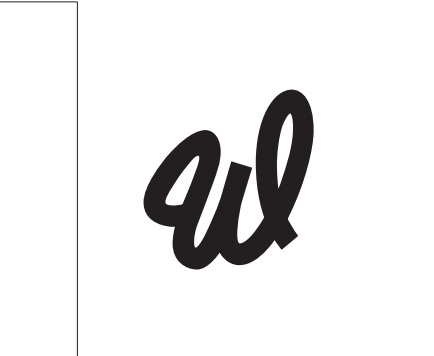


鳴門市制施行70周年記念 第36回ベートーヴェン第九交響曲演奏会

第九アジア初演の地、鳴門市で開催された第九の演奏会。市民に愛され大切に継承され本年六月には100周年を迎える。於：鳴門市文化会館(写真上) 板東収容所跡地に建立されている「友愛の碑」「日独友好の広場となるよう」と願いが刻まれている(写真下)



公益財団法人化を進め、より幅広い活動の全国展開を目指している。鳴門市ではいよいよ今年六月一日から三日間、一〇〇周年記念の第九演奏会が催される。公益財団法人化を機に、一人でも多くの協会の皆様が鳴門の第九に目を向け、あらためて友愛の精神に思いを巡らせてくださることを願ってやまない。



切った関係にあり、改善の兆しは見えない。そんな「対立と不寛容」の時代だからこそ、鳴門の第九に光を当てることで、友愛と平和のメッセージを世界に発信できるのではないか。

日本友愛協会は、自己の尊厳と共に他者の尊厳をも尊重する友愛の理念を掲げる。まさに板東の歴史に相通じるものがあり、今の時代に最も必要とされる思想だろう。

協会是一般財団法人から



①写真右端 筆者



②写真左端 エイさん

ミャンマー研修員を訪ねて

鹿児島県アジア・太平洋農村研修センター (カピックセンター) 研修課長 酒井マリ

カピックセンターでは日本友愛協会が受け入れた三人のミャンマー青年を対象に、昨年五月〜六月に農業やサツマイモに関する研修を実施しました。

今年の一月にミャンマーを旅行する機会があり、彼らに会ってきましたので、報告させていただきます。

元研修員のエイさん、ウインさん、アウンさんは、首都ヤンゴンに住んでいました。約半年ぶりに無事再会できたことに感謝し、さっそく一緒にシュエダゴンパゴダにお参りに行きました。(写真①)

エイさんには、ヤンゴン近郊の農村を案内してもらいました。その村にはサツマイモ栽培に取り組む農家もありました。エイさんは、研修で学んだサツマイモ栽培方法を農家に説明していました。農家の方々は、エ

イさんの話に強い関心を示し、質問しながら熱心に聞いていました。お茶の時間には、蒸かしたサツマイモを食べながら、日本の農業事情や生活習慣の違いなど、おしゃべりがはずんでいました。日本で学んだことを、ミャンマーの人たちに伝えようとしている姿が印象的でした。(写真②)

ウインさんは、農業関連の情報発信やコンサルティングを行う会社勤務していました。彼女は、研修終了時に「鹿児島で学んだ農業やサツマイモのことをインターネットで情報発信する」というアクションプランを作成していました。帰国後すぐにサツマイモに関する記事を農家向けの情報サイトに掲載したとのこと。日本で学んだ農産物の加工やマーケティング、農村振興など幅広い事例から、多くのアイデアを得ることができ、今の仕事にも活かされているそうです。

(写真③)

アウンさんは、食糧関係のNGOでパートタイムの仕事に従事していました。今後、海外に留学して林業のことをもっと深く学び、ミャンマーの役に立ちたいと熱く語ってくれました。

三人それぞれ立場は違いますが、協力して、ミャンマーにサツマイモを普及するためのプロジェクトを立ち

友愛 ほんだな

14歳のバベル

暖あやこ最新作

ち上げようとしていました。プロジェクトでは農家と連携して栽培試験を行う農場を開設する予定で、その資金については日本友愛協会の理事井上和子氏が個人的に支援しておられるとのことでした。現在は試験農場の場所を選定中で、雨季に入る五月頃には本格的にスタートさせたいと意気込んでいました。

彼らが今後のミャンマーの発展のために活躍してくれることを期待したいと思っています。



③写真左から二人目ウインさん

投稿

真の国際友愛について

代々木高校 二年 清水 瀬名

鳩山由紀夫理事長の唱える、共同体構想の根底にある、国民国家を否定せずに、伝統を大切にしながら、グローバル化に対応する大切さに共感します。

他国と友好的な共生をするときに、自国のアイデンティティを守るのは誤解を招くこともあるでしょう。

とどの国の人々は自国を誇りとし、伝統文化を大切に生きています。

今後、日本が周りの国々の人々と共生するにあたり、相互に理解を深めていくには、自国の伝統文化への愛情や理解や継承も自然に必要となるでしょう。

高度成長のために置き去りにされた文化で、本来はあった素晴らしい文化が、日本にもたくさんあるはずで

きな日本の文化としての誇りまで、私自身、日本の伝統、文化をどれだけ身近に感じ、あるいは取り入れて生活しているのか、顧みる必要を感じています。

真の国際友愛の道を進むには、日本らしさ、日本が誇る文化を取り戻すことです。その上で周りの国々と深い文化理解の上で交流をしていく、それが、正に「自立と共生」であり人間理解への近道になるのではないかと思います。

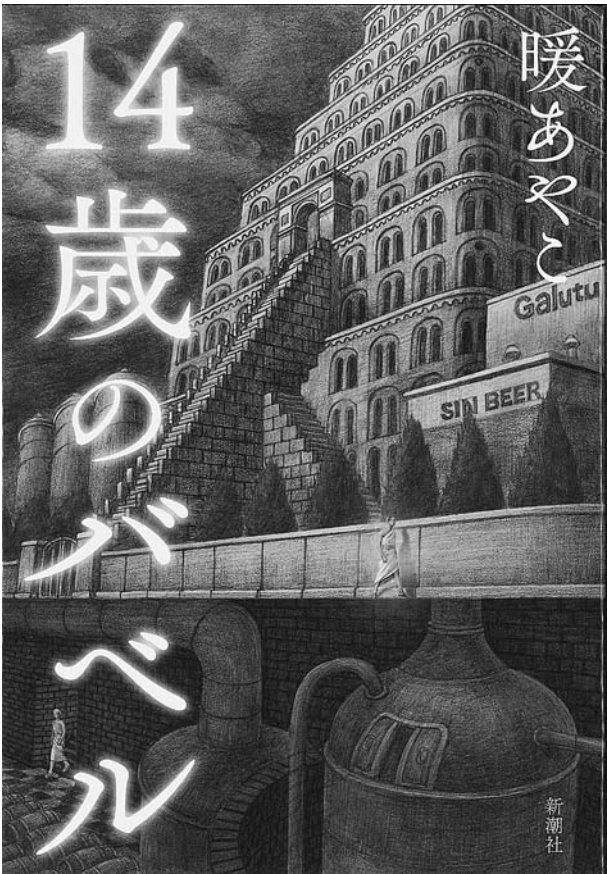
化されたら、この人物は俳優の彼の役どころだなとか、これは彼女だとか人物が映像として頭に浮かんでくるほど、作者の表現は見事です。主人公の冬人君は、さしずめ神木隆之介さんでしょうか？

「自分が悟ってほしいことを、相手はそうそう悟らないものだ。だから互いに伝え合う必要がある」という、登場人物の一人が話す

年齢、職業、性別、多種多様な人物が登場します。この登場人物たちの向かう先、目指しているものは……これもまた謎の一つで、各人がそれぞれの方向に進んでいる訳ではないのです。角度の違う矢印が、どこでどのように結びつくのか、謎と楽しみはどんどん膨らんでいきます。

てんでんバラバラな矢印

を持つ登場人物を、頭の中でイメージできるのは、作者の筆力の素晴らしさだと思います。この本がドラマ



著者：暖あやこ
発行：新潮社
体裁：四六判変形／334頁／並製本
価格：1,944円（税込）

＊お近くの本屋さんでご注文ください！

【編集室 H】

機関紙『友愛』にご投稿ください！

機関紙『友愛』に皆様のご投稿をお待ちいたしております。内容は、ボランティア活動の報告、地域の名物の紹介、季節のお便り等々、何でも結構です。ご自慢の写真も大歓迎です。皆様の『友愛』に奮ってご投稿ください。詳しくは事務局までお問い合わせください。

締切り：特に設けません。いつでもご投稿ください。掲載ご希望の月がある場合は、2ヶ月前に原稿が届くようお願いいたします。

要領：手書き原稿・データ原稿・メールでの投稿何でも対応可能です。
写真：紙焼き（カラー・白黒）・デジカメデータどちらでも。

時事川柳 服部迪夫 作

「スマイルと方言
「そだねー」が流行語録当
確か

「ピョンチャン五輪
スポーツ井政治井とに仕分
けされ

「クローズアップ
ここにきて文武両道栃の心

「相撲界のごたごた
力士より親方案がとる相撲

「本白根山噴火
ノーマーク草津白根の大騒動

「日本一・張本選手
十四歳卓球台でジャンプす

「ホンダ・設楽悠太選手
箱根時の猛者が賞金躍り食

「食の交差点
オキナワにアジアの食を誘
致する

◆「今日より若い日はない」

という言葉がありますが、残りの人生を考えますと、誰でも今が最も若い時に変わりありません。

そして一瞬一生という言葉が現実になるのもそんな時です。

人は年令に関係なく常に夢をもつ。そして夢に向って挑戦する。失敗したら、また再挑戦する。夢が人をつくり、希望が人を鍛える。

「青春とは人生のある時期を言うのではない。心の様相をいうのだ」ウルマンの言葉が頭を過ぎる。

生きるとは、未来に対し己を磨くこと。人生は死ぬまで未完成。常に「尚、足らざるを憂う」。一期一会の出会いが自らを知り、自らを拓く。

毎日が新しい命。（K）

◆三月卒業式の季節。卒業式の送辞・答辞で「沈丁花の花香る頃」という定番の言葉がありますが、最近沈丁花の香りに振り返ることが少なくなりました。天候不順でまだ開花していないのか、東京近辺では、沈丁花が少なくなってしまったのか、今年は未だあの香りに出会っていません。月光の色、木々の葉、花の蕾など季節の移ろいを感じさせる物は沢山ありますが、嗅覚に直接訴える香りはまた一段と記憶に鮮明です。そう言えば昨日見た水仙も香りが無かった…。異常気象、鼻の経年劣化？ それは忘れて、今はただ、新しい輝く春を待っています。（も）